

那 覇 市 教 育 委 員 会 会 議 録

平成 22 年 10 月 21 日開催 平成 22 年度第 14 回（定例会）

（非公開）議案第 28 号「那覇市立学校適正配置計画素案の策定について」

平成 24 年度第 8 回教育委員会会議（定例会）（平成 24 年 7 月 20 日開催）の議案第 13 号「教育委員会会議録の公開について」において、会議録を公開することが決定されたため、これを公開する。

<公開部分>

田端委員長 議案第 28 号「那覇市立学校適正配置計画素案の策定について」に関しては、市立小中学校の具体的な学校名を挙げて協議を行うことが想定されています。そのため、公開の会議の場で、想定していない学校名などを挙げて協議を進めた場合の市民に対する影響は非常に大きいと考えられます。また、そのことによって、公正な審議が保てないことなどのことも考えられます。したがって、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 13 条第 6 項」の規定に基づき、非公開とすることが適当であると思われますので、その可否について委員の議決を図りたいと思います。

全 員 異議なし

田端委員長 議決により非公開としますので、関係者以外は退席をお願いします。それでは説明をお願いします。

新城部長 提案説明

仲程副参事 説明

田端委員長 これまで何回か協議を重ねてきまして、前回から少し訂正があったようですが、この件につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

城間委員 表紙のタイトルで「那覇市立学校適正配置計画（統合・分離）」とありますが、通常「統廃合」という形で括弧書きされますが、「廃」があまりいい印象を与えないということで、意図的に「分離」を使ったのか。私は「統廃合」とよく文字を見ますが、これは意図的に使い、理由があるのでしょうか。

仲程副参事 これまでも基本方針を策定する中など、「統合」という言い回しは、おそらく委員がおっしゃった「廃校」にするとイメージがよろしくないという、確かに廃校にはなりますが、新しい学校を立ち上げるというイメージもありますので、これはそういう形で「統合」に取りまとめていったということで、この計画につきましても「統合」として、「分離」は新設校がありますので、そういうことが理由です。

金城委員 平成 19 年 6 月以降、20 年、21 年と議論がされてないですが、22 年の 9 月からとなっていますが、この空白期間は。

仲程副参事 この素案の原案につきまして、平成 20 年度に「学校適正配置検討委員会」という庁内組織を立ち上げてまして、いわゆるこの原案になる考え方などを 1 年間に 10 回程度の議論をもち、まとめました。その後、これまで空白があるということですが、そ

の間に通学区域の問題と、推計を取って、これから子ども達がどういう按配で伸びたり、あるいは下がったりするのかというのを、慎重に見守ってきたという事情があったということになります。

有銘委員

従来から避けていますが、個人的にこれは不可避。どこの学校ということではなくて、全体として児童数が減っているの、不可避だと思っている。保護者としては、それであっても納得したい、納得できる、安心した理由というか、説明してほしいというのが多分あると思う。冒頭の1ページのアンダーラインでいろいろ書かれていて、児童生徒のためということとはわかりますが、もっと言えるのかなという気がします。中盤の方で「那覇市教育委員会では、学校間格差」という表現がされていますが、その「格差」というのが経済的な格差ということとはわかりますが、では、規模的な格差のことを言っているのか、学力的な格差のことを言っているか、それ以外の格差を指しているのか、それによって保護者の捉え方は違うと思う。「規模的な格差であればそれは皆さんの都合でしょ」という言い方をされる。「それはあくまでも行政の都合であって、うちの学校、この学校に行きたいのになんでそこまで縛るの」というような言われ方をされるとつらいというのがあって、それを補うために補足しますと、分離はいいとして、統合することが児童生徒の生活環境、学力を含めてなんでしょうけど、そういったことに、今よりはプラスになるということをもっと言いたいというのがあって、それを踏まえて、それでも学校間格差で、現状が学校間格差ですというのが言えない。どうしてもまだ行政的な都合という意味合いが強く受け取られないかと危惧しているところです。もっと、もうここまできたので後は口頭での説明になるのかもしれないと思いますが、主体は児童生徒、保護者ということをもっともっと強烈に必要以上に言ってもいいと思います。

新城部長

今回の素案というのはあくまでも教育委員会会議で決めていただく、いわゆる基本的な実施計画になるわけです。この計画に基づいて更に関係者、保護者の皆さんをはじめ、関係者の説明については説明資料を作ります。このことについて今おっしゃったこと等を内容をすり合わせながら説明することになります。今、学校間格差、規模云々という話がありましたが、この話は教育委員会に臨む際に議論しまして、「学校間格差」には、どのような格差があるだろう、それぞれ格差が何をいうかと話をしたときにいろいろ意見も出ました。私達としては、小規模校と大規模校それが一つの焦点なんです。小規模校が持っているメリットデメリット。大規模校が持っているメリットデメリット。そういったことを説明会では逐一説明していくことにはなりますが、行政が考えているのはあくまでもそういった小規模校、大規模校というのが私達の学校教育環境にとってどうだろうということを、行政の立場として、責務として判断をして統合したいということを行っている。「学校間格差」という場合に、例えば古い学校と新しい学校は物、施設とか設備その他とか格差が生じるということは実際にあると思う。そのことを言っているということを行っている話ではなくて、あくまでも学級数の大きさ、少なさ、そうことから生ずる教育効果のそのところを、指導主事の

先生方に前に出て頂いて、そのことを説明してもらうことになります。そういった観点からの「学校間格差」という理解をして頂ければいいかと思います。

田端委員長 私も有銘委員から指摘をされて、「学校間格差」、格差の低い方に自分はいたのかと感覚になりまして、では、この前に例えば大規模校、小規模校の規模の「学校間格差」とか、こういう文言が入ればより親切と思ったりします。格差をいう場合にはどうしてもマイナスイメージがありますので。

有銘委員 私は客観的に受け止めたので気にはしませんが、久茂地小学校の保護者からすれば、うちの子どもは今回、前島に行かないといけない。原因の根底にあるのは格差で規模だってことになると、うちの子は1クラスだけで全然問題なくやっているのに、なぜそれを格差と行政は言うのかと、感情的な反論は当然あるのかと思います。

田端委員長 そうなると、この「学校間格差に対応し」を、抜いてしまった方がいいのではないのでしょうか。

新城部長 「学校間格差（学級数の規模によります）」ということで説明的な文章にもしていましたが、この「学校間格差」という言葉は、既に方針の段階から使用していて、「学校間格差」は明らかに学校、学級数規模を指しているということで我々は理解しています。しかしおっしゃるとおり、これは初めて保護者関係者に説明するわけですから、そこのところは、逐一丁寧に説明しないといけないとは思っています。そのことは、学級数の規模による格差がメインだということで説明します。では、そのことによってどういった教育効果が出てくるかということは、これまでの例の資料をお配りし、そういったことを説明するしかないと思っています。

城間教育長 この文章のこの部分は、最後にあります「那覇市立学校適正配置基本方針を決定しました」にかかるので、基本方針の中でありましたように、大きな「学校間格差」それを具体的には今のように学校規模であったりと、いろいろな格差に対応する。今回はこういうものに対応していきますという始まりの部分なので、この段階ではこれでいいのではないかと思います。適正配置の必要性和段々に来て、3ページに基本方針において、この格差においては以下の考え方を基本に取り組むことにしています、ということで、大きな部分から各論の方に入ってくる頭の方なので、そのまま残して頂いて、今のように説明会において、今回は「学校間格差」というのはこの部分の格差に対応してというような説明を十分にさせて頂きたいと思います。

田端委員長 今、気がつきましたが、1ページの3行目にちゃんと「学校間格差」の説明がされていますね。「ドーナツ化現象は顕著で、児童生徒数と学級数において学校間格差が生じています」とあり、この「学校間格差」に対するという理解でよろしいですか。

城間教育長 上記のような学校間格差に対応し、とすればより丁寧かもしれない。

城間委員 本当は「学校規模格差」ですよね。「学校規模格差」という使い方があるかわかりませんが、私も「学校間格差」これだけみると小さい学校がみんな悪いみたいな印象を与える。しかし説明の中で、これは学校の規模の格差が生じているからと言えればいいと思う。ついでに「小規模校は、家庭的な雰囲気」これは、反対ありきの保護者が

いるとすれば、顔の見える教育、PTAの顔が見える、小さいと何が悪いんだと。時間も子どもに対して一生懸命関わることができるのだから何が悪いという言い方すると思う。子どもの居場所という意味では全部小人数で離島の子もそうですが、絶えず保護されていて、教師と子どもが一生懸命指導できる。そういった教育というのは、社会的人間を育てるということですから、社会に出た場合に人と人の関わり方、個を大事にするということは個の能力をいっぱい成長させるため大事だが、個と個の人的ネットワーク、コミュニケーション、今の世の中これが最も大事になっていると思う。やはり人間関係が成立するある一定の規模の学級の数、12から18でしたか、そういうところが必要だということを言わないと、子どもだけの能力を高めるためだったら1対1の家庭教師タイプがいいかもしれないが、その子と他の子との関わり方を勉強させる意味では、道德の時間だけではなくて、日々生活している中で特活とか行事とか他でいろいろなところで切磋琢磨することによって、あまり自分と合わない子ども達との関わり方、そういうことは昔は当然地域で担っていましたが、そういう関係が地域で作れないわけだから、適正規模の中で誰がするかというのは学校でやるしかない。学校の中で作って、個々と個々の触れ合い、切磋琢磨しながら基本的な学習能力と対人間関係調整能力、コミュニケーション力を作っていくため適正規模がいいんだということを言わないと、反対の人たちはおそらく、中規模校、大規模校よりも大事に大事にその子どもに関わることができるし、いじめも何もないし、親の顔も見えるPTA活動ができるし、何が悪いのかと。しかし、それだけではなく今の子ども達は適正規模の中で切磋琢磨することが不足しているから、いじめの問題など、そこがとても大事だということを言わないといけな。もちろん行政の方々が説明していきますが、親は「全ての子の名前を覚えています」「全ての保護者のPTAの名前を言えます」「こんな素晴らしい教育環境はありません」と言うと思います。学校というのは、第一には子どもの成長のためにあるので、子どもの成長にとっては、こういう環境を作っていくことが、子どものもつ社会性、協調性とか社会教育というのは大事。昔は地域社会がそれを担っていたので、草野球などで切磋琢磨しながら人間関係を作っていたが、今は、地域に戻ってもそういう環境はないわけだから、学校がつくってあげなければいけない。どうするかというと、行事とか学級活動とかいろいろなところでたくさんの人間が関わりながら、時にはけんかもしながらということが今は大事だと思います。

田端委員長 城間委員、有銘委員からありましたが、「はじめに」に対する踏込みが足りないのではないかとのご指摘かと思いますが、この案件につきましてはいかがですか。

新城部長 城間委員のおっしゃったことは、これはおそらく何回説明会を開催して教育行政の案を説明しても、おそらく残る課題、問題だと思います。それはある意味では、その保護者達の価値観や、基本的な考え方、見解の相違という形で終わってしまう可能性もありますが、このことについてはご理解頂きたいという説明をしていきたいと思います。もう一つ、学校そのものが無くなるというある意味では感情的な問題がありま

す。これも大事ですが、それとまた、委員のおっしゃっている教育論としてどう説得できるか。こっちが大事だと思っていますので、ここのところはしっかりと学校教育課とも連携をとりながら臨みたいと思っています。それから「はじめに」の表記の件ですが、「学校間格差」という言葉そのものがある意味では歪んだ捉え方をされるじゃないかとありましたが、「学校間格差」という言葉そのものが、言葉の使い方が違和感があるという、そういったことですか。

有銘委員 おそらく感情的な話ですが、昨今で言われてる格差が、富める者、貧しい者というようなイメージで取られると、小さいのは悪いような取られ方を、もしかしたらするかもしれません。

仲程副参事 「はじめに」の最初の方は、基本方針の「はじめに」からそっくり引用しています。舌足らずになっているかわかりませんが、読み上げますと、「児童生徒数と学級数において学校間格差が生じています。本市教育委員会は、これらの課題を教育的観点から見過ごすことができません」と続いています。そういうことがあるので、審議会を立ち上げて審議しましょうということになっておりました。実はこの「学校間格差」の意味として含まれているのは、その格差自体、大きすぎる学校と小さすぎる学校があります。そこにはいわゆる教育環境上の問題がそれぞれ横たわっておりますということをこの中では表現していると。小さい学校では、メリットもあるのではという話もありますが、直接そこだけをまた強調するという書き方も難しかったので、その「学校間格差」で、格差自体には当然のごとく、児童生徒数、学級数とありますが、それは裏を返せば、その規模に基づいて教育効果に影響するような差がある。ですから教育の機会均等を図るということであれば、みんなより良い環境の中で子ども達に教育を施すという意味からそれを是正していきましょうという意味での「学校間格差」。つまり、数値上の格差という意味ではないです。言葉がちょっときついような文言ではありますが、そういう意味ではなくて、その理由があって教育上の問題がある、格差がある、いい条件で教育を受けている子ども達もいて、しかしながらちょっと都合の悪い条件で受けている子ども達もいるんですよと。それをどうにかしようという意味合いの格差というふうに考えています。

田端委員長 いわゆる「学校間格差」という言葉は、最初に基本方針の中で語られてそういう経緯があって、初めに聞いた人は何だろうと疑問を持つと思いますが、説明会等で説明を求められた場合には、行政の皆さんの方でそういうように対応されるということで理解してよろしいでしょうか。それであればこの言葉については、もうこれでよろしいかと思いますがいかがでしょうか。

有銘委員 反対の人は反対なので、その人達の周りにいる沈黙している人とか、静観している保護者に対して、腑に落ちるような説明をしたらいいと思う。先ほどおっしゃった、今の小規模、大規模でも悪くはないが、もうちょっと調整することで、もっと良くなるという言い方をもっとアピールしないといけない。御宅の小学校は大規模校、小規模校だからというのは、普段から保護者にとっては関係のない話だから、そんなこと

言われても基本方針の話になっても、そんなの知りませんと言われても仕方ないので、今でも良いですけど、更にもう1歩、良いですよという納得させるときに、その格差の中でうまく説明できればいいと思います。かみつく人はそういうことでかみついてくる、突っ込みやすい文言です。

新城部長 今の表現については、説明会における資料に工夫を凝らして、それでもかみつく方がいるかもしれませんが、しかしこちらも細目できるだけ説明をするようにしていきたいと思います。「学校間格差」ということが一つの私達の方針の出発点ですから、この文言を変えてしまうということについては、基本的な考え方そのものが変わってきたのかと聞き方をされる懸念もありますし、やっぱり私達も今回の委員会に臨む前にこのことはいろいろ議論をした結果、そうなったということがあります。

田端委員長 わかりました、ありがとうございます。有銘委員、了解してよろしいでしょうか。大変微妙な問題であり、城間委員から指摘されたことも、多分この文章を読んだ方々とか、もうちょっとこのことを力説してほしいともいろいろあろうかと思うのですが、この素案というのはどういう流れで、この場で了解しましたら即、作業に移っていくのですか。その辺りのこともう一度確認したいと思います。

新城部長 今後の進め方ということですが、久茂地小学校は100周年記念事業が控えて、そういった中で期成会の代表者の方々がイベントを進めていくが、「統合」があるらしいということで、その情報を求めてきたことをお伝えしましたけども、その時に、まだ教育委員会議で決定したわけではないので、方針としてはどうなるかわかりませんというような形で対応しました。その後、期成会の皆さんが周年記念事業のご挨拶ということで、2回も各会派にあいさつに行っています。ここにきて関係者、議会サイドでかなり動きが活発化してきたという様子があり、これに対応する形で一昨日、総務部、企画財務部と調整してきました。議会の方には教育委員会はこういった考え方で進めていきたいという情報をいち早くあげる。一部の議員には届いていますが、改めて公式の場でこういった方針でいきますということを説明する。そういったことでいち早く情報を提供するというで調整しています。ですから早ければ来週中にはその説明会を設けたいと思います。そして、議会に臨む際には、あくまでも質問が来ましたら臨機応変に対応をします。その前に1度は、議会の始まる前の11月いっぱいまでに地域関係者、保護者の皆さんに最初の説明を行う場を設定すべきではないかと意見が出てきていて、今回の事案の重要性ということから考えて、そのところの情報開示をしながら、進めていこうということがその趣旨です。このことは市長部局と相談して参ります。今のところ11月中には何らか形で説明会をするという方向性で検討していきたいと考えています。あくまでも素案なので前回も言いましたが、たたき台としての素案、これについて意見を聞きながら最終的には来年になりますが、本格的に統合の決定をしますということになっていきます。たたき台として関係者に詰めるための素案ということです。

田端委員長 部長の方から当事者からの不安要素であるとかいろんなこと、素案であるから、私

共が申し上げたことが、「はじめに」はもう少し膨らませた方がいいんじゃないかみたいな案は、またその時に受け止めて頂いて、この素案段階のこの議案第28号「那覇市立学校適正配置計画素案の策定について」は原案どおり決定してよろしいですか。

全 員 異議なし

田端委員長 素案ということで議決確定したいと思います。

新城部長 素案としての決定ですが、私達の仕事としての中身はこれから続いていくわけですが、これは戦後那覇市の教育行政で学校の統廃合という形で、極めて重要な最初のことになる事案になっております。関係部署との綿密な連携をしていかないとこの事案は進めていけないと思っていますので、かなり緊張感を持って臨まないといけない事案ということになると思いますが、今後の教育委員の皆様のご協力よろしくお願いします。

田端委員長 お願いですが、地域の皆さんの説明会に対して、参加できる、できないはよくわかりませんが、私共も認識を深めたいと思いますので、声かけをして頂ければ、立ち会って、地域の声を受け止めてみたいと思いますのでよろしくお願いします。

非公開を解きます。議案第28号「那覇市立学校適正配置計画素案の策定について」議決確定します。